

進捗状況の概要（1ページ以内）

常勤理事会・総合政策会議等の設置によるガバナンス体制の強化と学長のリーダーシップの下、事業の推進と確認、組織・規程・計画の整理・改編、各組織の役割の明確化・連携等を実施した。また、学内において、本事業の説明会としてのSD・FDを実施し、教職員が本事業の理念や趣旨を理解し、学生に対する教育活動をより適切にできるように支援を行った。加えて、社会への説明責任を推進するため、日経フォーラム（シンポジウム）、リーフレット、報告書、ホームページによる情報公開を推進した。情報公開により、教育改革の全国的な波及や企業との連携の推進が期待できる。

チュートリアル教育については、次年度以降の全学的な導入に向けた準備を進めるとともに、きめ細かな学生への学修支援を実施した。そして、チューターを採用については、チューター養成講座を通して育成採用するとともに、採用後にも研修を実施し、チューターとしての資質・技能の向上を図った。学修支援については、学生の視野を広げるとともに、主体的な学びを支援することを企図して、独自講座「学びのコミュニティ」において、チュートリアル教育を推進する総合学修支援機構DACと図書館が連携しながら、対面とオンラインを併用して、学びに生きる読書生活の創造、新しい学びのための図書館活用（著作権等の知識・理解）、AI社会、メディア社会、文学、哲学等の多様な講座の企画・運営に当たり、学部を超えた学生の参加があった。

令和4年度からの第Ⅱ類科目（専門教育）におけるカリキュラム改革にむけた学内のコンセンサスづくりについては、学部長・学科長との意見交換を踏まえて、学則の改正を実施した。全学部共通第Ⅱ類科目に（学融合ゼミナール）を追加し、所属学科の専門領域を中心としつつ他領域の知識・技能の修得を意識させる授業科目を設置した。ゼミナールにおいては、学融合的な学びの基本的方法を学び、幅広い学融合の知識や創造力、従来の枠組みを超えた学融合的・学際的な視点を身につけ、時代の変化に合わせて社会を牽引し、あるいは支えていく人材の育成と、学融合・学際的な知を養成することができる。

第Ⅲ類科目については、資格課程・キャリア形成・アントレプレナーシップ人材養成に資する科目群の位置付けとして改正し、アントレプレナーシップ育成教育プログラムを設けた。アントレプレナーシップ教育については、巣鴨全体をキャンパスにするという「すがもオールキャンパス構想」の計画として、学生の能力・資質を向上させるため、フィールドワーク・アクティブラーニング等を街の中で実施する予定である。

さらに、教職員の資質・能力の開発・向上に資する取り組みとして、教職員の総合的データ分析力と分析に基づく未来予測・意思決定・企画立案能力の発展を目指し、特別プログラム（全7講座）を実施した。具体的には、教育改革につながるDX推進の現状把握と理解を目的とした講座や、Excelをデータベースとして活用する際の機能やテクニックを習得する講座、BIツール「Tableau」を使ったデータの可視化力向上のための講座、そして情報の効率的な伝達のための図式化スキルを習得するワークショップを開講した。これにより、データドリブンな教育改革の中核を担う教職員を養成することができた。

指標とプログラム、評価法の確立については、教学IR推進部会及び外部評価委員会を設置・開催し、情報交換・意見聴取等を実施した。今後の事業の課題や意見を聴取することができ、取り組みの参考意見・改善課題とすることができた。

データサイエンス教育については、データサイエンス授業設計と運営における強化ポイントを貫いたことで、学生の「数学」の必要性の意識が高まり、主体的に学ぶ体制やサイクルが構築できた。また、授業前後のオンラインでの学修支援体制を構築し、休んだ学生や課題に取り組めていない学生への授業前後のサポートの日常化を教員間（担当教員チーム）で構築し、教育のPDCAサイクルを推進した。アントレプレナーシップ教育、地学連携によるフィールドワーク等のカリキュラム開発については、学内外との連携・情報交換を推進した上で、教育活動について検証・研究した。